



Christian Science Sentinel, October 4, 1999

『キリスト教科学さがげ』2001#1

## メリー・ベーカー・エディ：恐れを知らぬ癒し手

Mary Baker Eddy: Fearless healer

Rosalie E. Dunbar / ロザリー・E・ダンバー

メリー・ベーカー・エディは、幼いときから霊的な癒しに心を引かれていた。子どものときに、彼女は、神への信仰によって幾度も癒しを遂げている。これらの癒しは、彼女の伝記作家たちによって正確に記録されている。

その当時、彼女のまわりにいた人々は、彼女が将来、本を書き、その本が基督教の始祖キリスト・イエスの用いた癒しの方法を復活させて、幾百万もの人々を癒すだろうなどとは夢にも思っていなかった。また、その人々は、彼女が、世界中に支教会を持つ教会を創始し、幾つもの雑誌を創刊し、国際新聞を刊行するであろうとは、予想もしなかった。ところが、彼女は、正にそれらのことを果たしたのであり、しかも、それは、一般に、女性に従うものとされ、指導者になるなど、とても考えられなかった時代のことである。

Author's Name / Rosalie E. Dunbar

他の日本語記事については、次をご覧ください：<http://www.spirituality.com/christiansciencesakigake/index.jhtml>

© 2010 The Christian Science Publishing Society (CSPS)  
この記事は、50部までプリントアウトして、非営利として実費で提供することができます。この記事を手紙（email）で送ったり、ウェブサイトに載せたりすることはできません。代わりに、CSPSのウェブサイトに掲載されているこの記事へのリンクを、メールしたり、ウェブサイトに載せたりしてください。この記事を他の出版物に転載する許可を得るには、[copyright@cpsps.com](mailto:copyright@cpsps.com) 宛に、メールをお送りください。件名は、英語で "Copyright Request" としてください。

歴史的に考えると、彼女の生涯の前半、つまり 1821 年から 1866 年までのあいだは、後半の壮大な業績に備える準備期間であった。彼女は、1843 年に結婚したが、一年も経たないうちに、しかも一人息子が生まれる数ヶ月前に、夫は死亡した。彼女は住むところを得るため他人の慈悲に頼るという、未亡人の暮らしに耐えなければならなかった。10 年後に彼女は 2 度目の結婚をした。再婚の相手は、巡回治療を行なう歯医者で、浮気者だった。結婚によって安定した家庭を持ちたいという願いは裏切られ、彼女は息子の養育権を失った。20 年後、彼女は離婚した。この困難な時期に病弱であったということが、彼女を、体の癒しのさまざまな方法の徹底的探求に、向かわせたのであった。

医師らが行なっている様々な治療法を探查しながら、彼女の心の中には、常に、**神**の癒しの力についての考えが宿っていた。時間が経つにつれ、また経験を通して、彼女は、人間の心が、肉体と健康に及ぼす影響について、少しずつ理解を深めていった。彼女は、純粋に医学的とは言えない同種療法などの治療法も研究した。そして、彼女は霊的真理を、一瞬、垣間みながら、それに到達することができず、不満な思いを重ねていた。彼女の健康は、一時的に回復しても、また元の状態に戻るという繰り返しであった。

そして、1866 年 2 月、ある冬の日、非常に重要な瞬間が訪れた。彼女はある集会に向かう途中、凍った路上で滑り、転倒した。彼女は重傷を負い、医師は回復の見込みはほとんど無いと診断した。2 日間の苦闘の後、友人や親しい人たちが、彼女の終わりがくることを

*Author's Name / Rosalie E. Dunbar*

予期して集まっていたそのとき、彼女は、人生を一変する洞察を得たのである。

この経験について、メリー・ペーカー・エディは、次のように記している。「それから3日目に、私は聖書を持ってきてもらい、「マタイによる福音書」の9章2節を開いた。それを読んでいると、癒しの**真理**が、突然、私の感覚に示されたのである。その結果、私は起き上がって、身支度をした。そしてそれ以来、私は、それまで経験したことがないほどの健康を楽しんでいる。あの短い時間に得た経験で垣間みた偉大な事実を、私は、それ以来、他の人々に分かり易く伝えようと努力してきた。それは、**生命**は、**霊**のうちにあり、**霊**そのものである；そして、この**生命**が生存の唯一の实在である、ということである」  
( *Miscellaneous Writings, 1883-1896, p. 24* )。

彼女の人生の後半は、この癒しの方法を他の人々に伝えることに捧げられた。健康を回復した後、彼女は、深い祈りと、聖書の集中的な勉強によって、**キリスト・イエス**が行なった癒しは、奇跡的な出来事ではなかったことを理解した。そうではなく、イエスが意図したことは、誰でも、科学的な癒し、つまり確実に証明できる癒しを、行なうことができることを、すべての人に示すことであった。イエスはあらゆる時代に、自分に従うすべての人が、「病人をいやし、死人をよみがえらせ、重い皮膚病にかかった人をきよめ、悪魔を追い出せ、ただで受けたのだから、ただで与えるがよい」(マタイ 10:8)という、彼の命令を、忠実に守ることを願っていたのである。

Author's Name / Rosalie E. Dunbar

この記事は、50部までプリントアウトして、非営利として実費で提供することができます。この記事はメール (email) で送ったり、ウェブサイトに載せたりすることはできません。代わりに、CSPSのウェブサイトに掲載されているこの記事へのリンクを、メールしたり、ウェブサイトに載せたりしてください。この記事を他の出版物に転載する許可を得るには、copyright@csp.com宛に、メールをお送りください。件名は、英語で "Copyright Request" としてください。

エディ夫人は、聖書を勉強し、自分が Christian Science と命名したイエスの癒しの体系を解明する努力を重ねた結果、彼女の発見が聖書に根ざすこと、また、これら神性の法則の適用について説明する本が必要であることを、認識した。Christian Science は単なる心的な科学ではなかったのである。彼女にとって、それは文字通り、神性**科学**であり、健康と霊的清らかさについての**神**の霊的規則であって、日々の生活の中で実証できるものであった。**神**の法則には、偶然の要素は含まれていない。

この『**科学**と健康一付聖書の鍵』と最終的に命名された本を書くことは、彼女にとってある意味で、叙事詩となった、つまり心的な、また物理的な冒険の、長い旅路となった。彼女は**霊**、つまり**神**に、促されて書いていると感じ、自分はそれを筆記する者として、**神**に仕えていると考えた。当時、彼女は資金に乏しかった。そして、人々は、彼女の急進的な考え、つまり**神**はすべて善であり、悪を知らず、悪を世に送ることもないという考え、また**神**は人を霊的に完全なものとして創造したという考えに、必ずしも好意的ではなかった。彼女は、間借りの部屋から部屋へ引越しを繰り返しながら、自分の理念を、祈りによって、また聖書の勉強によって、そして更に、癒しを実践して立証することによって、発展させていった。

その一例として、彼女が生後 1 年半の子どもを癒したことがあげられる。子どもは慢性的な腸の疾患で、「骸骨のようにやせ細っていた。おかゆを少量口にするだけで、血液と粘

Author's Name / Rosalie E. Dunbar

液以外は何も排泄しない状態が何ヶ月も続いていた」。エディ夫人は、「子どものベッドに近づき、彼を抱きあげて、静かに抱きしめ、キスをして、ベッドに戻した。それから一時間もしないうちに、彼はベッドを出て、遊びまわり、普通に食事をし、完全に癒されていた」 (Robert Peel, *Mary Baker Eddy: The Years of Discovery*, p. 256)。

このように、彼女は、発見の初期の頃から、病気に直面しても恐れないということに、彼女の生徒たちは気づいていた (同書、p. 255 参照)。彼女は、神は病気を与えたことがない、それゆえ全能の愛の前であって、そのような不調には何の権限もないことを、理解していた。この理解は、病気が実在し得るといふいかなる根拠をも完全に奪い去ってしまう。病気が存在するという根拠は、たとえ苦痛という形で現れても、伝染病の恐怖という形をとっても、あるいは、それを癒そうとする努力は無駄だという信念として現れても、それらの根拠はすべて仮定に過ぎず、無力なのである。

『科学と健康』の初版は、1875 年に出版された。ある人々は、この本を厳く論評したが、本のメッセージの中に何か深いものがあると感じた人々もいた。メリー・ベーカー・エディは、癒しを真剣に求めているすべての人々のために、この本が教科書となることを期待した。彼女は、「わたしは病人たちが、心ではなく、肉体が自分を支配しているという信念ゆえに、非実在の主人に奴隷のように仕えて、多くの年月を費やし、疲れ果てているのを目前に見た」と書き、続いて、「足の不自由な人、耳の聞こえない人、口のきけない人、

Author's Name / Rosalie E. Dunbar

この記事は、50部までプリントアウトして、非営利として実費で提供することができます。この記事はメール (email) で送ったり、ウェブサイトに載せたりすることはできません。代わりに、CSPSのウェブサイトに掲載されているこの記事へのリンクを、メールしたり、ウェブサイトに載せたりしてください。この記事を他の出版物に転載する許可を得るには、copyright@csp.com宛に、メールをお送りください。件名は、英語で "Copyright Request" としてください。

盲人、病人、官能的な人、罪人を、彼ら自身の信念の奴隷となった状態から、またイスラエルの子らを、昔と同様に今日も束縛しているパ口の教育方式から、わたしは救ってあげたい」と書いている（『科学と健康』、p. 226）。

彼女はこの本を改訂し、そのメッセージをいっそう明瞭にしたが、彼女自身が、この本を熱心に学ぶ生徒であった。彼女は、**神**が神性の実在を彼女に啓示していると感じていた。そして、**神・霊**に自ら語らせることが、彼女の最終目標であった。この本は、彼女の個人的な信条表明ではなく、また名声と賞賛を自分にもたすためのものでもなかった。それは、癒しの、罪のあがないの本であり、誰でも必要なときにこの本を読むなら、**神**の力が示されるための本であった。

この『科学と健康』の改訂の仕事は、苛酷な試練のもとで続けられた、時には文字通り法廷での裁判に持ち込まれ、あるいは最も信頼していた人々の離反もあったが、これらの試練が、彼女に、計り知れない活力と力を与えたのである。この本に書かれた言葉の一つ一つが、彼女が直面していた、また彼女の教会設立の仕事が直面していた、現実の問題に答え得るかどうか、試されていたに違いない。この本が、現在も有用性を保ち、その癒しの効果をもたらしていることは、それが時の試練を経ていることを示すものである。

Author's Name / Rosalie E. Dunbar

## 癒す人から著作者へ

### From healer to author

1868年、グラバー夫人は、当時エディ夫人はそう名乗っていたのだが、自分の病気を治して、神性科学の原理と規則を、完全に理解しようと励んでいた。聖書が彼女の唯一の教科書であった。そして、彼女は聖書の中で発見した神性の法則に従って、他の人々を癒していた。

5月30日、土曜日、「メリー・B・グラバー夫人」宛の電報が彼女が住んでいたウェブスター家に届いた。それはニューハンプシャー州、マンチェスターから来たものだった。「ゲイル夫人が重態、できれば月曜の午前中に来てください。可否の返事を待つ」。すでにこの時、友人たちは、グラバー夫人は癒す人であると思っていた。彼女は、すぐに荷物をまとめて、メリー・ゲイルに会うために出発した。到着すると、医者たちは、ゲイル夫人は、もう助かる見込みはなく、絶望的だと言った。彼女は肺炎で死にかかっていた。グラバー夫人は、彼女を即座に癒した。この癒しについては、エディ夫人の著書、*The First Church of Christ, Scientist, and Miscellany*, 105ページに、記されている。後に、何が『科学と健康』を書く動機になったのかと、生徒から質問されたとき、エディ夫人はこの癒しに言及している。その生徒、クララ・シャノンは、当時のことを次のように回想している：

Author's Name / Rosalie E. Dunbar

この記事は、50部までプリントアウトして、非営利として実費で提供することができます。この記事を手紙 (email) で送ったり、ウェブサイトに載せたりすることはできません。代わりに、CSPSのウェブサイトに掲載されているこの記事へのリンクを、メールしたり、ウェブサイトに載せたりしてください。この記事を手紙の出版物に転載する許可を得るには、copyright@csp.com宛に、メールをお送りください。件名は、英語で "Copyright Request" としてください。

[グラバー夫人が] 部屋に入ってきたとき、患者は、枕をいくつも使って体を支えている状態で、話をすることもできなかった。私たちの指導者は、この患者を呼び覚ますことが必要であることに気づいた。そして、[枕を取り去ってから、] 起きられるのですよ、着替えのお手伝いをしましょう、と彼女に言った。ゲイル夫人は即座に癒されて、元気になった。

その場にいた医者の中で経験豊かな年配の医師が、これを目撃して、「どうやって癒したのですか？ 何をしたのですか？」と尋ねた。[グラバー夫人は]、「私にはお答えできません。神がなされたのです」と答えた。すると彼は、「これを本に書き、出版して、世界の人々に与えるべきです」と言った。彼女は家に帰って、聖書を開いた。すると次の言葉が目にとまった。「イスラエルの神、主は、こう仰せられる、わたしがあなたに語った言葉を、ことごとく書物にしなさい」(エレミア 30: 2)。

Ivonne Cache von Fettweis and Robert Townsend Warneck, *Mary Baker Eddy: Christian Healer* (Boston: The Christian Science Publishing Society, 1998), pp. 55-56.

Author's Name / Rosalie E. Dunbar